

発行：NPO 法人蔵王のブナと水を守る会
 (ナショナル・トラスト事務局)
 〒989 - 0231 宮城県白石市福岡蔵本字滝下 102
 ホームページ： <http://www.zao.org>

萩の花が咲き、赤とんぼが飛び始めました。蔵王の森は秋が巡って来ています。猛暑のこの夏も新型コロナウイルスは収束する気配はなく拡大が続いています。まだまだ気を抜くことが出来ません。当会も行事予定を見直しながらも、植林地や荒浜海岸林の作業を続けております。秋にもいくつかイベントを企画しておりましたが、今回も見送ることになりました。自然観察路の見学や定例会時の活動参加は行っておりますので、是非ご自由にお越し下さい。どうぞ皆様も油断なさらず、感染には十分お気を付けてお過ごしください。

《 4つの森の植林木の現状について 》

仲村得喜秀

はじめに、彩遊の森 (約8ha)、リスの森 (約2.5ha)、アナグマの森 (約2.5ha)、この3つの森が今まで自然観察路を作った森で、白石市との共有地である。それに加えて当会の所有地である場所にも、自然観察路を作ったらどうかという話が昨年に出て、作ったのが小鳥の森 (0.7ha) である。ここではまだ成長記録は取っていないが、他の3つの森は2017年度から、8m以上伸びた木については調査を行っている。

2020年迄の記録が以下の表である。

調査年度	2017年	2018年	2019年	2020年
リスの森	7本	44本	100本	179本
アナグマの森	10	90	182	239
彩遊の森	?	18	40	124
年度別総本数	17+?	152	322	542

当会は広葉樹の森作りを目指しているため、スギやカラマツは調査対象とはしていない。この数字からもわかるように、この若い森は今伸び期に入っているようで、空気中の炭酸ガスをたっぷり吸い込んで成長し続けている。特に伸びのいい樹種は、ミズナラ、ウワミズザクラ、オオヤマザクラ、ミズキ、アサダ、コナラ、ケヤキ、イタヤカエデ、ミズメ、ドロノキ、などである。

以下は各森についての案内である。

1. リスの森 (約2.5ha)

入り口を入ってすぐにオオヤマザクラ、ウワミズザクラの並木があり、4月20日前後に咲くオオヤマザクラのピンクは何とも言えない美しさである。すぐにツリーハウスがあり、そこを過ぎると針広混交林実験地がある。スギは10m前後、カラマツは13m前後と伸びていて、その間にカツラ、トチノキ、ミズナラ、オオバボダイジュなどの有用広葉樹が植えられている。8mを超えて伸びているものもあるが、思った程伸びていないものもある。結果が見えてくるのはまだまだ先の話である。ここを抜けると元々あったブナ、ミズナラ、コナラの森になる。太いものでは直径80cmぐらいのコナラもあり、オオズミというあまり見られない木も入っている。ここを抜けると本格的な植林地となり、マイツリーの名板付きの木が次々と出てくる。13mぐらいまで伸びたドロヤナギ、8m以上に伸びたブナ（2018年開花結実）、熊の爪あとも痛々しいウワミズザクラ、宮城県には自生のないシラカバ、オオバボダイジュ、カシワ、誰が植えたかシダレザクラまである。そしてカラマツの大木のある防風帯へとたどり着く。この防風帯の枝にリスの巣があったことから、ここはリスの森と名付けられた。ここを抜けると良く伸びたケヤキ、ミズキ、コシアブラ、ミツデカエデ、ブナなどの植林地となり、オオヤマザクラの並木が出口となっている。ちゃんと観察して歩けば実に多様性のある森である。ここだけで1時間は説明できる。そんな中身のたっぷり詰まった森といえる。

2. アナグマの森 (2.5ha)

ここは入り口が防風帯となっていて、コブシ、オオヤマザクラの大木が並んでいる。早春に咲く白とピンクの花は素晴らしいコントラストを見せてくれる。ここを入るとすぐに、大きく伸びた2本のドロノキの間を通り、植林地の中で、2本しかないイヌブナの木が出てくる。すぐに2例目の防風帯となるが、カラマツの大木が主である。その中にウワミズザクラの二股になった巨木が入っている。ここを抜けるとミツデカエデの並木になり、左手には初冬に紅葉が美しいイロハモミジがある。この並木を曲がって行くと、良く伸びたイヌザクラとミズナラの木があり、優良木といえる姿をしている。そのまま真っすぐに行くとウワミズザクラ、オヒョウ、ブナ、ヤマボウシ等が出てくるが、ヤマハンノキの伸びすぎた木にやや被圧を受けている。隣地との境界近くにはアナグマの巣穴があり、このことからここはアナグマの森と名付けられた。キハダの大きな木が目印である。境界をぐるっと回った角付近では良く伸びたブナ、ウワミズザクラ、カジカエデなどが見られる。観察路の奥まった所には、カラマツ林があり、林床はコブシ、ミズキ等の実生苗で埋めつくされている。鳥の糞からの実生である。次にはイタヤカエデの並木があり、2015年と2018年に開花結実したブナがある。もう一方の境界付近にはキハダの実生苗が多くあり、いずれキハダの並木を作ってくれるものと思う。ここにはシウリザクラの親木もある。ウワミズザクラ、シウリザクラ、イヌザクラの3つがある森はここぐらいではないかと思う。出口に近づくと、アサダの並木があり、シナノキのこれから伸びてくれそうな木もあり、最後にはコハウチワカエデとメグスリの木が送り出してくれる。8m以上に伸びている木はこの森が一番多い。

3. 彩遊の森 (約8ha)

この森は面積が一番広いにも関わらず、8m以上に伸びた数は一番少ない。理由はリスの森と、アナグマの森は元々が畑だった場所なので土が肥えていて条件が良かったのだが、ここは元原野なので、土壌がやせていたという事である。ここには観察路以外に車の通れる幹線道路もある。ここでの観察路は複雑なので、順を追って箇条書きにする。

- ① 入口はオオヤマザクラ、コブシ、ブナ、カツラ、ミズキなどがある。
- ② 元々あったアズキナシ、ミズナラの森。アズキナシスズ病で周辺部が黒くなっている。
- ③ 1つ目の植林地、トチノキ、ミズキ、キハダ、カツラ、ウリハダカエデ、オヒョウ、ミズメなどがある。
- ④ 彩遊の森。ここは元、大きな松林だったが、外側以外の松は伐採し、カエデ類やサクラ類を植林した場所。彩遊の森の名前は森からとったもの。
- ⑤ 広い駐車場を抜けると2つ目の植林地に出る。その入り口にはケヤキやミズキがあり、更に進むと、熊が果実を食べる為に登るウワミズザクラとクリの木がある。
- ⑥ アカマツとカラマツの森。元々あった森でコシアブラ、ミズキ、ホウノキ、ハリギリ、シナノキ、ヒトツバカエデなどの広葉樹が伸びてきている。
- ⑦ 植林地でカシワ、ミズキ、ミズナラ、ヤマボウシなどが見られる。
- ⑧ 幹線道路
- ⑨ 最頂部の植林地でケヤキ、ブナを主に植林。ウリハダカエデ、イタヤカエデ、サクラ類の実生苗が入ってきている。
- ⑩ ヤマツツジの多いコースでホツツジ、バイカツツジ、イヌエンジュなどが見られる。
- ⑪ 幹線道路を経てヤマナシの木から入る植林地。ブナ、ミズナラが多く、ウダイカンバ、キハダが混じっている。
- ⑫ コースの両側にレンゲツツジのある所で、ミズナラ、ウリハダカエデ、ミズメなどがあり、途中元々あったダケカンバがあり、2本目のヤマナシの木へとぶつかる。
- ⑬ 元々あったアカマツの林を抜けると、ブナ、ミズナラの植林地になり、2本目のイヌブナを過ぎると、出口の幹線道路となる。

この森の中には宮城県初見、絶滅危惧種、希少植物が自生しているので、そういう場所はコースから外してある。

4.小鳥の森 (0.7ha)、

ここは2019年にコースを刈り払った場所で、まだ何の調査もしていない。場所によっては、建物を建てる前からの植林も行われている。ブナ、アオナラガシワ、カシワ、クヌギ、ミツデカエデなどがあり、アオナラガシワやカシワ、クヌギは大木となっている。今大きくなっているヤマモミジは植林前からあった木で当初は2mぐらいの小さな木だった。この森の中には高さ15cm程のチョウセンゴヨウの実生苗があり、うまく育ってくれる事を願っている。小鳥の森の名前の由来はコースに巣箱をかけた事からついた。3つかけた巣箱は全てシジュウカラが営巣したが、テンと思われる動物に襲われ、悲しい結果となってしまった。これも自然なのかもとあきらめるしかない。来年はどうしたらいいのだろう。

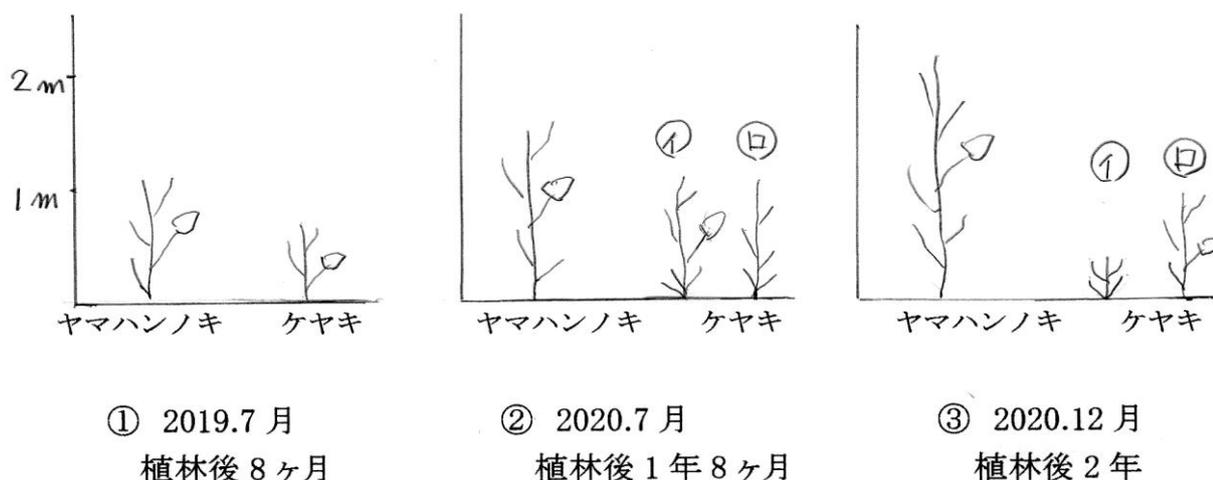
<ヤマナシ 8月23日>



<マルバハギ>



〈荒浜海岸林の現状と今後〉



上記の絵はヤマハンノキとケヤキをモデルにした1つの模式図です。

- ①の植林後 8ヶ月では、ヤマハンノキは 1.3m前後まで順調に伸び、ケヤキは樹勢は良くないもののまずまずの状態である。
- ②の植林後 1年 8ヶ月では、ヤマハンノキは 1.7m前後と伸び、ケヤキは 2本共に死んではいないが、①は上部の小枝が枯れて、根元からの萌芽が多く見られている。②は①よりは状態が良く、上部の枝もまだ生きている状況で、根元からの萌芽も見られる。
- ③は、今年の 12月の作業という事になる。ヤマハンノキは 2mぐらいまで伸び、ケヤキの①は幹切りをして、萌芽した芽を伸ばす作業をする。②については、現状を見守る事にする。その辺の判断は 1本 1本確認しながら行っていく。

①についても、②についても伸びがないという事は土壤にまだ伸ばすだけの力(養分)がないという事なので、草本類の遷移の進行がその力を与えてくれるものと思う。ケヤキが植林時の高さまで幹切り後に成長するには 3年ぐらいはかかると考えている。そこまでいくとあとは一気に伸びてくれるものと思う。他の樹種については、ケヤキに準じて考えていきたい。ヤマハンノキは 5年後と言えば 5m近くにはなるはずなので、枝打ち作業 3年目ぐらいからしていかななくてはならないはずである。

ナショナルトラスト基金報告

ナショナルトラスト基金をお寄せいただき、ありがとうございました。
2020年1月～6月の累計は、以下のとおりです。

2020年度件数	16件
2020年度金額	76,000円